

TEIKA NEWS LETTER

Teikyo University of Science

Vol.
33



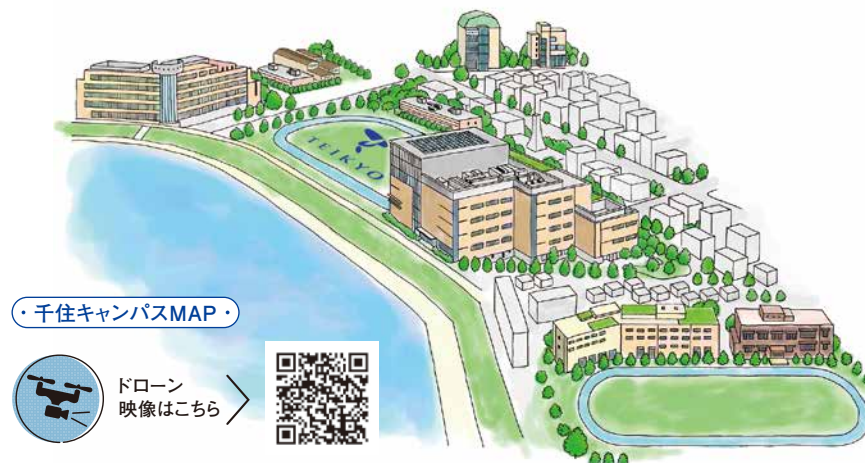
SENJU CAMPUS



7号館・千住総合グラウンド
東京23区内にある大学では珍しい、第4種公認400mトラックを備えた全面人工芝のグラウンド

千住キャンパス10周年

5路線が乗り入れ、通学の利便性が高い北千住に位置する千住キャンパス。およそ60年前、この地には国民生活を支える「千住火力発電所」がありました。発電所の老朽化と代替エネルギーの進化により使命を終えた後は、足立区立元宿小学校にその地を譲り、小学校が廃校となった後、2010年4月に千住キャンパスが開設され、今年で10周年を迎えました。学生の学びを支える施設・設備も充実しており、約300名が学べる大教室から、少人数制授業に適した小教室、さらには最新設備が整った実験・実習室も完備するなど、快適な学修スペースを整えています。また、東京スカイツリーが一望できる吹き抜けの本館ラウンジは、授業の合間などにゆったりと過ごせる、学生が集う人気スポットとなっています。



・千住キャンパスMAP・



ドローン映像はこちら



本学は「いのちをまなぶ」大学です。2015年4月から学生たちの学び舎として利用されている7号館には、環境に配慮した屋上緑化を取り入れています。さらに、太陽高熱発電モジュール(50Ku)を組み込むことで、屋上面への日射に対する断熱性能を向上させました。建学の精神でもある「自然と人間の共生」を体現する、「いのちをま

なぶキャンパス」にふさわしい空間となるよう、今後も環境整備に努めて参ります。

また、2020年4月には、千住キャンパス内に「帝京科学大学千住桜木保育園」を開園しました。実社会に開かれた環境下で、学生の学びを丁寧にサポートして参りますので、今後ともご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



本館



2号館



3号館



4号館
5号館

TOKYO WEST CAMPUS



動物や自然と触れ合いながら 実践力を身に付ける

東京西キャンパスは、山梨県の東端・上野原市に理工系単科大学として、1990年4月に西東京科学大学 上野原キャンパスとして開学、1996年に現在の帝京科学大学に名称変更し、今年で30周年を迎えました。世界文化遺産に認定された富士山や、奥多摩・丹沢山系に囲まれ、すぐそばに富士五湖のひとつ山中湖を源流とする桂川(相模川)が遠く相模湾へと注いでいる、緑豊かな自然や動物と共生する自然派キャンパスです。



プリコラ

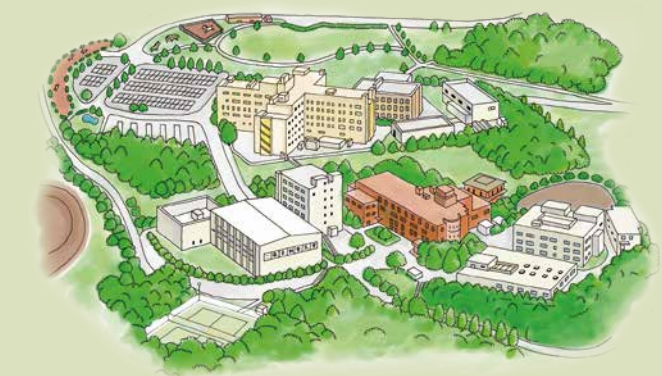
実験研究棟1階に位置する施設「プリコラ」は、「OPEN AIR LAB[®]」の象徴となる場です。ありあわせの材料で手作りするという意味の「プリコラージュ」に由来し、さまざまな実習やワークショップが行われるほか、学生グループのミーティングや共同研究、先生方とのディスカッションなど、自由かつ多用途に活用されています。



馬介在活動センター

東京西キャンパスには、恵まれた自然環境を活かした教育・研究施設が整っています。「馬介在活動センター」では、動物介在活動・教育を実践する場として4頭のウマやヤギが飼育されています。

・東京西キャンパスMAP・



ドローン映像はこちら



NEWS TOPICS

「まなび」を支える 3つのセンター

1 総合教育センター

小出 哲也 准教授

■ 新型コロナウイルスが私たちに突きつけたもの

100年ぶりのパンデミック(感染症の世界的流行)に対し、科学は役に立ちませんでした。これまでずっと生命科学に向き合ってきましたが、これほど無力とは思いませんでした。その一方で、新型コロナウイルス感染症の病態解明は驚異的な速さで進んでいます。そうした様々な戸惑いの中、Zoomを利用したオンライン授業が始まりました。画面越しにでも学生皆さんの元気な顔を見ることができるので、今では安心して授業に取り組んでいます。パワーポイントを活用したいつもの「生物学講義」にプラスして、最新の研究事例もたくさん紹介しています。こんな時だからこそ、デマや誤った情報に踊らされないためにも、「確かな知識を学び、自分で調べ考えること」の大切さを伝えています。それが、このパンデミックに立ち向かう最良の方法だと思っています。



2 教職センター

高田 麻美 助教

■ 教職センターにおけるコロナウイルス対応

教職センターは、教職を志望するすべての学生・卒業生を全面的にサポートしています。主な活動は、履修相談や各種ガイダンスの実施、教育実習や介護等体験などの実習支援、学校ボランティアやインターンシップの指導、教員採用試験対策です。今年度の教員採用試験対策においては、新型コロナウイルス対策として、少人数制の面接指導やオンライン授業を併用し、学生の指導にあたっています。一人一人の「なりたい教師」像の実現をめざし、今後も全面的にバックアップして参ります。



3 医学教育センター

真先 敏弘 教授

■ 次代の医療を担える人材の育成

医療科学部の学生に対する医学教育を担っています。深遠膨大な学問である医学を初学者に伝えることは専門家にとっても容易ではありませんが、基礎医学・臨床医学の各専門分野の教員が自らの研究や臨床経験から得た見識をかみ砕き、分かりやすく教えています。昨今のコロナ禍の中で、私たちの安全を守るのには正確な医学知識とその実践であることを目の当たりにしました。私たちは医療科学部の学生に医学を教授することで、次代の医療を担える人材の育成をめざしています。



千住桜木保育園

2020年4月に千住キャンパス内に開園した「帝京科学大学千住桜木保育園」は、キャンパス内に立地された利点を最大限に活用した保育・研究を展開していきます。保育者をめざす幼児保育学科の学生を対象に、保育実習をはじめ、乳児クラスで使用する手作りおもちゃの作成、園庭や保育環境の整備などの場を提供し、子どもたちとの触れ合いを通して、子どもへの理解を深めます。



✿ 実習生が深く学べる環境に

2020年4月、帝京科学大学千住桜木保育園が開園しました。すべてが新しい保育園で園児と保育者が信頼関係を築きながら、笑顔あふれる毎日をご提供しています。本園は幼児保育学科の実習園として、大学と連携しながら学生たちが様々な体験活動を通して、保育の学びを深めています。子どもたちとの触れ合いや保育現場での活動から「子どもに寄り添う保育者」という将来を見据えた学びができる環境を整えていきます。今後は学生たちや地域の方々との交流を通して、子どもたちが愛情を感じながら安心感を覚え、他者への信頼感が育まれるような保育園をめざしていきます。

(園長・大槻 千秋先生)



2020年
教育人間科学部 こども学科卒業
内村 美月さん
(私立立川女子高等学校出身)



2018年
医療科学部 看護学科卒業
内田 麻友さん
(県立館林女子高等学校出身)

✿ 大学での学びを生かして

座学で学んだ子どもの発達や情緒、実習授業で身に付けたオムツ替えや沐浴、ピアノ演奏、手遊び、パネルシアター作成。大学で学んだすべてが今の仕事に生きています。「知っている」で終わらせず、「実際にできる」までサポートしてくれるのが帝京科学大学の魅力です。日一日と成長していく子どもたちを見守りながら、私自身もさらに成長していきたいと思っています。

(保育士・内村 美月さん)

保育園では看護師として子どもたちの日々の健康チェックや体調不良の園児の対応、園内の衛生管理など業務は多岐にわたり、学生時代に看護学科で小児看護実習を学んだ経験が今の業務に活かされています。子どもたちの笑顔や元気な声を毎日聞けることは私の力の源です。これからも感染症やケガに留意し、子どもたちの健康で安全な園生活をサポートしていきたいです。

(看護師・内田 麻友さん)

コロナ対策授業

— 本学の取り組み —

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面授業ができなくなるという制約がある中で実施している、各学科の特色を活かしたコロナ対策授業の取り組みをご報告いたします。

生命環境学部 Faculty of Life & Environmental Sciences

アニマルサイエンス学科

Department of Animal Sciences

古瀬 浩史教授

3年生向けに開講されている「インタープリテーション実習」では、家の庭や近所の公園で「自然の美しさ・不思議さ」を探し、スマートフォンで写真を撮り、「#こんな時こそ身近な自然観察」のハッシュタグでSNSに投稿する活動を行いました。「インタープリテーション」とは、自然や環境等の意味や重要性を伝える教育的なコミュニケーションです。対面によるコミュニケーションが難しい中、画面(レンズ)を通して自然を見つめ、その一瞬をとらえ、他者に伝えようとする学生の想いが詰まった写真を動画にまとめました。QRコードから視聴できますので、ぜひご覧ください。▶



自然環境学科

Department of Natural & Environmental Science

和田 龍一准教授

2年生が対象の授業では、ビデオ会議アプリZoomを用いたオンライン講義を行っています。オンライン講義では、学生と直接コミュニケーションが取れるため、学生の様子がよくわかります。「基礎環境科学実験」では、教員が実験している様子を動画にて配信しています。実験は実際に行うことが大事ですので、画面を通してでもできるだけ興味を持ってもらえるように、カメラを複数台用いて多方向から撮影するなどの工夫をしています(写真は実験動画撮影中の山際清史先生)。学生のみなさんには、ぜひ自然に対する好奇心を持ち続けてほしいと思います。



生命科学科

Department of Life & Health Sciences

上野 良平准教授

新型コロナウイルス対策として、ビデオ会議アプリZoomで遠隔講義やセミナーを行ったり、セミナー参加学生の間で電子メールを用いた討論を行ったり、Campus Squareによりレポート提出や出席管理を行うなど、インターネットを活用して、対面授業以上に効果が高い教育方法を模索しています。本学科の特長は、多様な実習を通してバイオサイエンスの幅広い技術を身に付けられることです。この点が損なわれないよう、対面実習と非対面解説を組み合わせ、キャンパス別、学年別に異なる学生数を考慮し、学生間の密度を安全に保てるようなグループ分けをするなどの工夫を重ね、充実した実習を行って参ります。



医療科学部 Faculty of Medical Sciences

理学療法学科

Department of Physical Therapy

渡辺 長講師

学生同士の接触を避けるため、ビデオ会議アプリZoomを利用した授業を行っています。今後、対面式授業を実施する際は、基礎体温などをGoogleフォームで提出してもらい、学生の体調管理に努めます。また、通勤時間と重複しないよう、可能な限り授業時間を調整するほか、講義は少人数グループで行い、教員と学生ともにマスク装着・手指消毒を徹底して行います。座席も最低2m間隔とし、換気することで3密を回避します。学外臨床実習実施を計画する場合は、新型コロナウイルスへの理解を深める講義の実施と、学生にマスク・アルコールジェルの配布を行い、感染に対する標準予防策を確実に定着させる予定です。



富山県介護実習普及センターでの福祉用具感染症対策

作業療法学科

Department of Occupational Therapy

黒川 喬介講師

新型コロナウイルスの感染拡大により、病院や施設で実施される予定だった総合臨床実習の実施が困難となりました。このため、厚生労働省の指示の下、本来の実習に代えてビデオ会議アプリZoomなどのオンラインツールを用いて学科の専任教員による演習または学内実習等を実施し、学生は臨床実習に必要な知識および技能を修得します。実際の方法としては、教員が作成した動画を用いて、講義や実際の動作などを見せながら実技演習を行います。また、直接対象者と接することができない代わりに、事例を提示して、学生が評価計画から治療目標・治療計画を立案、検討します。作業療法士の教員と学生が双方向でやり取りしながら、これらの学修を進めて参ります。



柔道整復学科

Department of Judo Therapy

杉浦 加奈子助教

柔道整復学科では4つの取り組みを中心に行っています。①ビデオ会議アプリZoomやYouTubeを活用した授業：実習などの対面授業は実施できないため、Zoomなどを積極的に活用し、課題提示だけの単調な学修にならないよう工夫しています。②学生の負担を考慮：課題1回当たりのレポート分量の上限を決め、提出期限なども柔軟に対応しています。③4年生、科目等履修生の国試対策：遠隔授業を実施して模擬試験を行い、来学していた時と同様、質問や個人面談にもビデオ会議アプリZoomにて随時応じています。④助言教員による学生対応：学生の状況を観察しながら、学修困難を抱えていたり、課題提出が遅れていたりする学生に対してこまめに対応し、積極的なコミュニケーションを図っています。



医療科学部 Faculty of Medical Sciences

東京理学療法学科

Department of Tokyo Physical Therapy 金子 千香講師

早期からオンラインミーティングツールを使用した非対面式の講義を開始するとともに、各助言教員を中心に学生の個別指導を行っています。本学科は学内外における実習授業の充実を特色に掲げていますが、未だ感染拡大収束の見通しが立たない中、他者との接触を伴う実習授業や国家資格取得のための学修に欠かせない医療・福祉施設での臨床実習も中止・延期を余儀なくされています。引き続き感染状況を注視しつつ、学生に不利益がないよう臨床実習指導者の協力も得ながら、最善の代替学修方法を模索し提供して参ります。最終学年である4年生に対しては、臨床実習の代替授業とともに非対面による国家試験対策、就職サポート体制を強化しています。

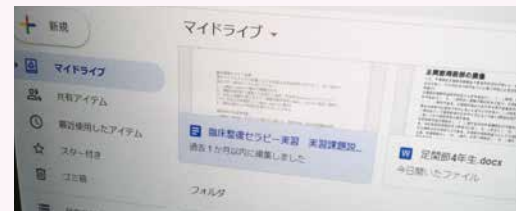


臨床実習施設における臨床実習指導者による授業動画作成場面

東京柔道整復学科

Department of Tokyo Judo Therapy 行田 直人准教授

新型コロナウイルス感染防止のための3密を避けた取り組みが必要な中で、講義や実習の実施が困難な状況が続いており、本学科でも学内での講義・実習教材、課題学修資料提示（課題提示型授業）、オンラインによる講義などを行っています。学生が在宅学修でも理解を深められるよう、必要に応じて実習でのポイントとなる箇所の写真や動画を取り入れています。教員も学生も3密を避けた取り組みを実施するとともに、外出の際のマスク着用、日々の定期的な手指の消毒を実施するように伝えています。現在、より効果的な講義・実習方法の検討や学生の在宅学修状況把握と適時指導を行っています。今後も継続して学科教員内での情報共有を行って参ります。



看護学科

Department of Nursing 野田 義和講師

新型コロナウイルスの影響がある中、学生が興味を持てるような遠隔による講義や実習、国家試験の学修に取り組むとともに、学生同士の意見交換を大切にしています。意見交換では、相手の考えを聞き、理解する能力が求められます。看護は、新生児や高齢者、障害のある方なども対象としており、相手の考えを理解することが重要ですので、遠隔講義でも意見交換できるように講義を進めています。また、文字ばかりの遠隔講義では集中力が途切れてしまうため、視聴覚教材を多く利用しています。同時に、講義時間以外のメールによる質問も受け付けており、学修の質を保てるように環境を整えています。



医療福祉学科

Department of Medical Welfare 浅沼 太郎講師

医療福祉学科では、福祉系国家資格を取得するためのサポートを行っています。社会福祉士の相談援助実習については、実習先との協議を重ねて、今年度はすべてオンラインで行うことになりました。現場に直接行くことはできませんが、学生が実践を通して専門性を身に付ける貴重な機会であることは変わりません。教員は実習指導者に協力を依頼して、約10ヶ所の事業所から承諾をいただきました。ソーシャルワーカーの実践例をはじめ、法制度の範囲に収まらない実態について、ビデオ会議アプリZoomを通しての直接指導、指導者による解説動画などの学内実習プログラムを準備しているところです。オンラインの特性を活かした、新たな実習に期待しています。



教育人間科学部 Faculty of Education & Human Sciences

こども学科

Department of Child Science & Education 小湊 真衣講師

前期は新型コロナウイルス感染症対策として、原則、非対面で授業を実施しました。Campus Squareに資料を提示して課題を課す課題学修型授業のほか、教員ごとに様々な工夫をこらしながら、学生の学びをサポートしています。実技を伴う授業も非対面で行われており、身体表現の授業では学生がオンラインで振り付けを修得し、授業中に合同でダンスを行う取り組みも展開されました。また、学生が主体となって進行する授業や、実習事後報告会もビデオ会議アプリZoomを活用して行われています。非対面で授業を行うことが極めて困難であると判断された実習系の授業の一部は、感染防止に努めながら対面式で授業を行う予定です。



幼児保育学科

Department of Early Childhood Education & Nursing 今西 ひとみ准教授

コロナ禍の状況下で様々な制限を受け、遠隔授業など通常と形は変えつつも、講義・演習・実習プログラム全般を通じて、授業の質をきちんと担保できるように試行と工夫を重ねながら、授業の進行を心がけています。また、今後「保育実習」「教育実習」が予定されており、実習先と綿密に連絡を取り合いながら、お互いの健康と安全を第一に考えつつ通常通り実施できるように準備を進めています。さらに、緊急事態宣言下においても、学科でスムーズに実習単位の取得が可能になるよう、日頃から対応策を検討しています。



学校教育学科

Department of School Education [中高理科コース] 安藤 生大教授

当初の授業開始の予定から2週間遅れてスタートした遠隔授業は、ようやく軌道に乗ってきたように思います。当初は、教員が課題をアップロードし、学生がレポートを提出するスタイルで授業を進めていました。しかし、文字中心の学修は、教員にも学生にも多くのストレスがかかることから、6月からは、自宅にホワイトボードやWebカメラを設置し、ビデオ会議アプリZoomクラスを開設しました。現在では、通常に近いスタイルで授業が行われています。ただし、やはり実際の教室にいるような「いつでも質問できる雰囲気」の確保は難しい状況です。学生の学修内容の定着と評価については、Googleフォームによるミニテストを実施するなどして、新しい授業と評価スタイルの構築を試みています。



[国際英語コース] 塩川 春彦教授

英語科目の遠隔授業においては、①履修学生が視聴する講義動画の作成、②ビデオ会議アプリZoomを使った授業、③履修学生に課題を出し、答案を提出してもらうこと、④課題の解答と解説の配布などを実践しています。①はYouTubeにアップし、履修者のみが視聴できるように限定公開し、③、④は本学のオンラインラーニングマネジメントシステムCampus Squareを利用しています。講義動画はその週の授業で扱う内容を、パワーポイントのスライドにナレーションをつけて作成しています。答え合わせでは、課題の解答を音声ファイル化したものを履修者に聴いてもらうこともあります。



※2019年撮影

Go to See Graduates.

卒業生に会いに行く。



2000年3月
理工学部 バイオサイエンス学科卒業*
県立日立第一高等学校(茨城県)出身
佐藤 洋介さん

笹一酒造株式会社で杜氏を務める。酒造工程の指揮を執るほか、日本酒のブランディングや新酒の考案にも積極的に取り組む。在学中は引馬研究室に所属し、主に排水処理に関する微生物の活用について研究。
*現・生命環境学部 生命科学科

理工学が「杜氏」の強みに

帝京科学大学を卒業して日本酒造りの世界に飛び込んだのは、自分でも思いがけない決断でした。普通に就職活動をして、普通にサラリーマンになって。そんな“普通”の未来を思い描いていたんです。でも、心のどこかでずっと、“モノ作りがしたい”と思っている自分もいました。そんな時にキャリア支援センターで笹一酒造の求人を見かけて、面接を受け、その奥深い世界にすぐにのめり込んで、気づいたら20年の月日経っていた、というわけです。

在学中は、お世辞にも華やかとは言えないキャンパスライフを送っていました。4年間、新聞配達のアルバイトと学業を両立させるために毎朝1時半に起床。でも“人”には恵まれて、気の置けない研究室の仲間と仲良く、ワイワイと。正月だというのに、微生物の世話をするために研究室まで足を運んだのもいい思い出です。

1、2年次は理工学の基礎を学び、3、4年次には微生物について専門的に研究しました。排水処理に関する微生物を、いかに効率よく、簡素に使用できるかという実用的な研究内容です。意外ですが、杜氏の仕事にその知識が生きているんです。もろみや麴の状態をコントロールする際に、勤や経験だけに頼らず、科学的な視点からアプローチできることは自分の強みだと思っています。何がいつ、どう役立つのか、人生はわからないものですね。



“人”で変わる、味と人生

日本酒造りは朝早くから夜遅くまで、特に冬の間は蔵に閉じこもって打ち込むストイックな仕事です。そして杜氏は、日本酒製造の最高責任者として各工程の指揮を執り、全体を見つつ細部を調整する存在です。もちろん、一人でできる仕事ではありません。若者も、年配者も、みんなが互いにコミュニケーションをとり助け合わなければならない。そこは大学の研究室で仲間と切磋琢磨した経験と、どこか通ずるところがあるような気がしています。

大切にしている言葉は、「和醸良酒」。人の和はいい酒を醸し、またその酒も人の和を醸すという意味です。仲間によって大学生活が充実したように、お酒の味も、出会う人やその関係性によって変化する。この言葉を胸に刻みながら、これからも精進していきたいです。



お酒の味や質を安定させるために、気温や湿度の変化には常に気を配っています。こうしてでき上がったお酒を試飲して、思い描いた通りの味に仕上がっていた時ほどやがりがいを感じる瞬間はありません。

両親への手紙



お父さん、お母さん。いつも全力で私の夢を応援してくれて、ありがとう。大学入学から足早に時が過ぎ、来年の3月、私は帝京科学大学を卒業します。普段は素直になれず、きちんと言葉にできない「ありがとう」を伝えたくて、この手紙を書きました。高校3年生だった私が、突然、卒業後の進路を就職から大学進学に変更した時のことを覚えていますか？「そう決めたのなら、応援します。全力で頑張るなさい」。それは何から手をつけていいのかさえわからずにいた私にとって、進むべき道を明るく照らすトーチの

ような言葉でした。大学入学後は、授業の課題をこなさなければならない時もあり、やり場のない苛立ちをぶつけてしまったこともありましたね。でも、どんな時もお父さんとお母さんは私を励まし、その温かい手で背中をそっと押してくれました。本当にありがとう。私はもうすぐ、夢を叶えます。これからは、夢を叶え、毎日を生き生きと過ごす姿を見せることで、感謝の気持ちを伝えていきます。今度は私が2人の背中に手を添え、支えていく番だと思おうから。

生命環境学部 アニマルサイエンス学科
動物看護福祉コース 4年

今野 秀美

KONNO HIDEMI



帝京科学大学 学園祭

University Fes.

今年度の科大祭と桜科祭は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止となりました。
中止は大変残念ですが、今年の実行委員長に
次回の意気込みや取り組んでいきたいことを言葉にしてもらいました。

科大祭 (東京西キャンパス) TOKYO WEST CAMPUS



第30回 科大祭実行委員長 堀添 雅浩

こんにちは! 科大祭実行委員会です。今年度は新型コロナウイルスの影響により世界的にイベントが中止になり、科大祭も中止になってしまいました。しかし、来年は今年のみで楽しんでいただけるよう、科大祭実行委員一同、準備を進めて参ります。来年の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

桜科祭 (千住キャンパス) SENJU CAMPUS



第10回 桜科祭実行委員長 櫻井 竜也

新型コロナウイルスの影響を受け、第10回桜科祭は中止になりました。節目の10回目だけに、実行委員会でもたくさん悩みました。しかし、見方を変えれば次回の桜科祭をより良い大学祭にできるよう、考える期間が増えたともとらえられます。今までの反省を再確認し、新しい案を取り入れ、全員が笑顔で楽しめる最高の学園祭にしたいと思います! 期待してください!

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、今年度前期の授業は非対面となりました。教職員にとっても初めての経験で、教育の質を保证するために全力を注いで取り組んでいます。本号の「コロナ対策授業」では、各学科・センターが担当する非対面授業でのさまざまな創意工夫を紹介させていただきます。学生諸君の安全を第一に考えると、非対面授業もやむを得ない状況です。ご理解頂くとともに、引き続きのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

[ニューズレター部会長 渡邊 浩一郎]